

## ● 株 主 メ モ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 6月  
基準日 期末配当 3月31日  
中間配当 9月30日  
株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
みずほ信託銀行株式会社  
同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部  
(郵便物送付先) 〒135-8722東京都江東区佐賀一丁目17番7号  
(電話お問い合わせ先) みずほ信託銀行株式会社 証券代行部  
0120-288-324 (フリーダイヤル)  
同 取 次 所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店  
みずほインベスターズ証券株式会社  
本店及び全国各支店  
単 元 株 式 数 1,000株  
公 告 方 法 電子公告 (当社ホームページ)  
上 場 取 引 所 東京証券取引所 市場第二部  
証 券 コ ー ド 7991

## ● ホームページのご紹介

当社では、ホームページによる情報開示を積極的に行っています。財務情報や最新ニュースをはじめとするIRサイトも掲載しており、製品情報・技術情報も含めて随時更新を行っております。是非ご利用ください。

<http://www.mamiya-op.co.jp/>

**Mamiya-OP Co.,Ltd.** マミヤ・オーピー株式会社  
埼玉県さいたま市南区根岸三丁目23番10号



## 第66期 年次報告書

Business Report 2008

2007.4.1 ▶ 2008.3.31

**Mamiya-OP**

マミヤ・オーピー株式会社

# Philosophy

経営理念

## 経営理念

「ものづくりを通し、信頼性の高い技術と品質をお客様に提供し、豊かな未来を拓いていく」

## 経営方針

- ① 利益ある成長 ..... 企業活動の源泉である健全なる利益を追求した経営を実行します。
- ② 徹底したお客様志向による信頼性の確保 ..... お客様の目線で「ものづくり」を行い、お客様の満足と信頼を得られる経営を実行します。
- ③ 独自分野に果敢に挑戦する開拓精神 ..... 失敗を恐れずに、時代を一步リードする独自分野に挑戦する経営を実行します。
- ④ 法令等を遵守し、公正かつ良識ある企業活動 ..... すべての役職員が法令等を遵守し、公正誠実な企業活動をとることにより、お客様や社会から信頼され共感を得られる経営を実行します。

## 行動指針：MI-5 (エムアイファイブ) Mission Improve

5つの使命を掲げ、常に進歩 (Improvement) を続け社会に貢献する企業を目指してまいります。



- ① Mannerism (マンネリズム) の排除 = 前例主義、現状維持は後退を意味します。常に問題意識を持ち、型にはまった手法を排除し、自由な発想で仕事に取り組みます。
- ② Motivation (モチベーション) の向上 = 意欲なくして進歩はありません。常に高い向上心を持ち、積極的に会社構築に参画します。
- ③ Moral (モラル) の維持 = 自由を尊重しつつ、組織人・一般社会人に求められる社会規範を守り、秩序ある行動をとります。
- ④ Market (マーケット) 志向 = お客様目線の発想を徹底し、世の中の動きに敏感に反応する行動をとります。
- ⑤ Make a profit (プロフィット) = 健全なる利益を追求し、結果の出せる行動をとります。

真の改革に取り組むべく、全社員が一丸となり邁進します。

# Top Message

株主の皆様へ



代表取締役社長

滝沢 三規

株主の皆様方におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、第66期年次報告書をお届けするにあたり、当社経営への平素よりのご理解とご支援に厚く御礼申し上げます。

さて当社は、真の改革に取り組むべく、「ものづくりを通し、信頼性の高い技術と品質をお客様に提供し、豊かな未来を拓いていく」ことを経営理念として掲げております。そして現在、その実現のための4つの経営方針の下、行動指針として「MI-5」を策定し、「5つのMの実践による社会貢献と進歩」をスローガンとして、全役職員一丸となりこれを推進中でございます。

当社は、この行動指針の実践をすべての役職員に徹底するとともに、より一層真摯な姿勢でメーカーの原点に立ち返り、「真心を込めた丁寧なものづくり」に取り組むことでお客様に満足していただき、豊かな社会に貢献できる企業を目指してまいります。そして、役職員一人ひとりがこの行動指針の下、お客様から信頼と満足をいただけるよう自ら考えそして着実に行動する、それこそが、企業が社会の一員としての責任を果たすことであると、当社は考えております。

さらに当社は、事業拡大を支える人材育成や技術開発など、新しいマミヤ・オーピーの土台作りのために取り組むべき経営課題も含め、すべての課題を一つひとつ着実に実行し達成していくことで成長し続け、そして当社が掲げる経営理念に即した事業展開が実現できるものと確信しております。

そして、このような認識の下で当社は、平成21年3月期よりの金融商品取引法に拠る内部統制報告制度の導入に対応すべく、コーポレート・ガバナンス体制の全面的な再構築を進め、平成20年4月1日付で、代表取締役社長を委員長とする内部統制・リスク管理委員会を中心とする新体制をスタートしました。

常に時代の流れを的確に捉え、新しい未来を切り拓くための努力を続ける私どもマミヤ・オーピーに対し、今後とも、一層のご支援とご愛顧を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

平成20年6月

## 電子機器事業部門

## 社会に大きく貢献するエレクトロニクス技術

私たちは、急速で激しい技術革新と多様化するお客様のニーズ、そして流動的な経済情勢への柔軟かつ果敢な対応が求められる今日の市場環境において、確かな技術とおお客様のニーズをマッチングさせた、高品質で信頼性の高い製品をご提供することを第一に考え、事業活動を展開しております。これまでも、新たな技術の開発・導入による新製品開発に積極的に取り組み、台間玉貸機などのパチンコ周辺機器及びアミューズメント関連機器、さらには小型券売機や薄膜厚計などの製品で社会に大きく貢献してまいりました。また、厳しさを増す一方の価格競争

に対応するため、生産方式の改善などによる生産性向上への粘り強い取り組みを中心とした一層のコストダウンを図るとともに、品質管理の徹底によりお客様のご信頼におこたえいたします。

また私たちは、平成20年4月1日付で、三洋電機株式会社の搬送システム事業を会社分割により承継したマミヤ・オーピー・ネクス株式会社を全株式を譲り受け、紙幣搬送システム、紙幣識別装置及び硬貨・メダル払出機などの開発・製造・販売事業に進出いたしました。

これによって私たちは、コストパフォーマンスに優れ、パチンコホールにおける様々なレイアウトに柔軟に対応可能で、各種タイプの金庫を取り揃えた紙幣搬送システム、あるいは、主としてゲームセンター向けに、業界最小クラスや紙幣リサイクル対応といった多彩なラインナップを誇る紙幣識別装置、そして硬貨・メダル払出機などの製品をご提供することにより、お客様のニーズにフレキシブルに対応し、自由なレイアウトと拡張性のあるフロアー実現をお手伝いすることができるようになりました。



■ 本社 社屋



開発・研究スタッフ



■ 東京営業本部 (五反田宏陽ビル)



カードユニット(メダル払出機・台間玉貸機)



Operal 高性能小型券売機



マルチチャンネル型 薄膜厚計



■ 岩槻事業所 社屋



熟練工によるセル生産



調整・検査ライン



紙幣搬送システムの生産

## スポーツ事業部門

## 世界のトッププロが認めたPROFORCEシャフト革命

私たちは、昭和48年に国産初のカーボンシャフトを発売して以来、ゴルファーの夢である「より遠くへ、より正確に」を実現するため、弛まぬ努力を重ね研究開発に注力することで、次々と先進のシャフトを世に送り出してまいりました。そして、世界初の4軸織物を搭載した「AXIV」は、その斬新さと高い性能ゆえに、トッププロをはじめとする多くのゴルファーから大きな支持をいただくことができました。また最近では、アパレルデザイナーとのコラボレーションにより、これまでにない高いデザイン性を誇るレディースシャフトを発売し、ファッション・コンシャスなゴルファーの話題を独占いたしました。

そして米国市場におきましては、平成3年にUST(ユナイテッドスポーツテクノロジーズ・LP.)を設立して以来、「PRO-FORCE GOLD」による日本のシャフトメーカーとして初めてのマスターズ制覇(平成11年)などを背景として、数多くのヒット商品を生み出し、最近では、「PROFORCE V2」が、ジム・フューリック、デービス・ラブⅢ、ロッド・パンプリングをはじめとする契約トッププロの活躍もあり、昨年の最も成功したシャフトになりました。新年度につきましても、このような実績を踏まえ、マミヤ・オーピーとUSTの連携をさらに強化し、ゴルファーの夢の実現と市場の発展に貢献してまいります。

また、海外生産拠点であるバングラデシュ工場(MOPB)では、平成元年のスタート時点から培った高度な生産技術により、シャフトの安定生産はもとより、品質面の管理強化、生産の効率化、またUST中国工場との連携強化などをさらに進め、お客様の要望に的確に対応できる工場運営を行ってまいります。バングラデシュ工場においてはさらに、精密部品の生産・加工及び組み立てなども積極的に行い、精密機械加工技術を生かした新規ビジネスの開拓にも取り組んでまいります。

このように、私たちは新年度も、ワールドワイドな視点から事業に取り組む、日本、米国そしてバングラデシュにまたがるグループの総力を挙げて、収益性と信頼性の高い製品の供給に努めてまいります。



AXIV-X



ユナイテッドスポーツテクノロジーズ・LP.



■ 戸田事業所 社屋



試打用テストルーム



PROFORCE V2



マミヤ・オーピー(バングラデシュ)Ltd.

当連結会計年度におけるわが国経済は、原油価格の高止まりをはじめとする原材料価格高騰の長期化に加え、いわゆるサブプライムローン問題による米国経済の減速が鮮明になり、ドル相場の急落など、その影響が国際的に波及する状況の下で、長期にわたる景気拡大の主役であった輸出企業の業績が急落し、今後の経済情勢への不安が高まる中で推移しました。

こうした経済環境に加え、当社グループは、パチンコ業界を巡る厳しい状況の下で主力事業である電子機器事業の業績が悪化する中、企画・開発・生産・販売等、事業活動におけるすべての局面におけるグループを挙げての企業努力を重ね、個別での繰越損失を解消するとともに、三洋電機株式会社の搬送システム事業の買収を決定するなど、積極的な事業展開を図ってまいりました。

電子機器事業部門は、価格競争とシェア争奪の激化が続く中、お客様よりの強い納期短縮ニーズへの迅速な対応、商品企画部の設置、「1円パチンコ」対応機種投入などにより販売てこ入れを図ったものの、射幸性の高いパチスロ「4号機」撤去などによるファン人口の減少による事業環境悪化の影響を免れることはできず、メダル払出機のみならずパチンコ台間玉貸機の売上も大きく落ち込みました。この結果、当事業部門の売上高は87億80百万円（前期比29.2%減）となりました。

スポーツ事業部門は、国内におきましては、主要原材料であるカーボン繊維不足の解消により、製品が一転して供給過剰に陥ったことに加え、ゴルフ規則の改正による高反発素材の規制による買い控え、原油価格高とドル安による原材料価格の高騰など厳しい市場環境が続く中で、OEM製品及び滑り出し好調であった4軸織物シャフト「AXIV」シリーズが下期にかけて苦戦いたしました。USTモデル「ProforceV2」シリーズがツアープロにも浸透するなど、引き続き健闘いたしました。

一方、海外におきましては、主要市場である米国における景気低迷、ゴルフを含むアウトドアレジャーの人気低下などの悪条件にもかかわらず、メリハリをつけた商品展開・PR戦略とPGAツアーでのトッププロの使用率の高さなどに支えられた「ProforceV2」シリーズの売上が引き続き好調に推移し、大きな成果を上げることができました。この結果、当事業部門の売上高は35億23百万円（前期比10.9%増）となりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は123億4百万円（前期比24.7%減）、経常利益は9億91百万円（前期比20.0%減）となりました。

さらに、特別利益として、投資有価証券売却益2億99百万円、貸倒引当金戻入益1百万円、特別損失として、固定資産売却却損4百万円、過年度役員退職慰労引当金繰入額35百万円を計上した結果、当期純利益は11億1百万円（前期比88.7%減）となりました。なお、当期純利益が対前期比で大幅に減少しておりますが、これは、前連結会計年度において、主として特定調停に基づく債務免除による債務免除益59億21百万円、本社・工場の敷地売却による固定資産売却益19億60百万円等の、非経常的要因による多額の特別利益が発生したためです。

また、個別の当期純利益として11億39百万円を計上した結果、前期末に10億99百万円であった個別での繰越損失を解消いたしました。剰余金の配当につきましては、高付加価値製品の開発のための技術力強化並びに安定して利益配分の継続を可能ならしめるための内部留保に充当させていただきたく、その実施を引き続き見合わせさせていただきたいと存じます。

株主の皆様には、心よりお詫び申し上げますとともに、早期の復配に向け全社一丸となって努力いたしますので、これまで以上のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 連結貸借対照表

科 目	当 期	前 期
	平成20年3月31日現在	平成19年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	8,904	9,894
現金及び預金	4,557	3,936
受取手形及び売掛金	2,437	3,688
有価証券	12	12
たな卸資産	1,750	1,691
その他	156	577
貸倒引当金	△ 10	△ 10
固定資産	1,035	1,081
有形固定資産	625	630
建物及び構築物	322	350
機械装置及び運搬具	190	189
工具・器具・備品	106	83
土地	3	3
建設仮勘定	2	3
無形固定資産	7	12
投資その他の資産	402	438
投資有価証券	22	152
長期貸付金	594	600
その他	609	510
貸倒引当金	△ 824	△ 825
<b>資産合計</b>	<b>9,939</b>	<b>10,976</b>

連結貸借対照表注記事項

1. 有形固定資産の減価償却累計額
2. 自己株式の数

(当 期)

2,491百万円  
167,558株

(前 期)

2,535百万円  
151,995株

(単位：百万円)

科 目	当 期	前 期
	平成20年3月31日現在	平成19年3月31日現在
<b>負債の部</b>		
流動負債	2,769	4,254
固定負債	1,545	2,199
<b>負債合計</b>	<b>4,315</b>	<b>6,454</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	5,248	4,149
資本金	3,958	3,958
利益剰余金	1,319	217
自己株式	△ 29	△ 27
評価・換算差額等	374	373
為替換算調整勘定	374	373
<b>純資産合計</b>	<b>5,623</b>	<b>4,522</b>
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>9,939</b>	<b>10,976</b>

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当期	前期
	平成19年4月1日から平成20年3月31日まで	平成18年4月1日から平成19年3月31日まで
売上高	12,304	16,336
売上原価	8,845	12,255
販売費及び一般管理費	2,280	2,786
営業利益	1,179	1,295
営業外収益	102	247
営業外費用	290	303
経常利益	991	1,239
特別利益	300	9,118
特別損失	40	558
税金等調整前当期純利益	1,251	9,799
法人税、住民税及び事業税	150	87
当期純利益	1,101	9,711

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	当期	前期
	平成19年4月1日から平成20年3月31日まで	平成18年4月1日から平成19年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	747	△ 2,545
投資活動によるキャッシュ・フロー	524	5,690
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 674	△ 3,134
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 6	△ 1
現金及び現金同等物の増減額	590	8
現金及び現金同等物の期首残高	3,926	3,918
現金及び現金同等物の期末残高	4,517	3,926

連結株主資本等変動計算書

当期(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本				評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計	
平成19年3月31日 残高	3,958	217	△27	4,149	373	373	4,522
連結会計年度中の変動額							
当期純利益		1,101		1,101			1,101
自己株式の取得			△1	△1			△1
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)					1	1	1
連結会計年度中の変動額合計	0	1,101	△1	1,099	1	1	1,101
平成20年3月31日 残高	3,958	1,319	△29	5,248	374	374	5,623

貸借対照表

科目	当期	前期
	平成20年3月31日現在	平成19年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	7,255	8,240
現金及び預金	4,547	3,820
受取手形	68	1,058
売掛金	1,915	2,186
有価証券	12	12
たな卸資産	435	562
前払費用	44	54
未収入金	240	527
その他	1	28
貸倒引当金	△ 8	△ 10
固定資産	995	1,046
有形固定資産	196	193
建物	74	80
機械装置	33	41
工具・器具・備品	81	63
土地	3	3
その他	4	5
無形固定資産	6	12
電話加入権	1	4
ソフトウェア	5	7
投資その他の資産	791	840
投資有価証券	22	152
関係会社株式	469	469
長期貸付金	594	600
長期前払費用	4	5
長期延滞債権	1,445	1,664
その他	582	481
貸倒引当金	△ 2,327	△ 2,533
<b>資産合計</b>	<b>8,250</b>	<b>9,287</b>

貸借対照表注記事項

	(当期)	(前期)
1. 有形固定資産の減価償却累計額	425百万円	405百万円
2. 自己株式の数	167,558株	151,995株
3. 資本の欠損の額	—	1,127百万円

科目	当期	前期
	平成20年3月31日現在	平成19年3月31日現在
<b>負債の部</b>		
流動負債	2,735	4,256
固定負債	1,545	2,199
<b>負債合計</b>	<b>4,281</b>	<b>6,455</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	3,969	2,831
資本金	3,958	3,958
利益剰余金	39	△ 1,099
自己株式	△ 29	△ 27
<b>純資産合計</b>	<b>3,969</b>	<b>2,831</b>
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>8,250</b>	<b>9,287</b>

損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期	前 期
	平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで	平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで
売上高	9,390	13,768
売上原価	7,261	10,756
売上総利益	2,128	3,011
販売費及び一般管理費	1,442	1,956
営業利益	685	1,054
営業外収益	272	166
営業外費用	188	302
経常利益	769	918
特別利益	414	9,158
特別損失	40	558
税引前当期純利益	1,143	9,518
法人税、住民税及び事業税	3	4
当期純利益	1,139	9,513

損益計算書の注記事項	(当 期)	(前 期)
1株当たり当期純利益	12円21銭	142円55銭

株主資本等変動計算書

当期(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本				自己株式	株主資本 合計	純資産合計
	資本金	利益剰余金		株主資本 合計			
		その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金 合計				
平成19年3月31日 残高	3,958	△1,099	△1,099	△27	2,831	2,831	
事業年度中の変動額							
当期純利益		1,139	1,139		1,139	1,139	
自己株式の取得				△1	△1	△1	
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)							
事業年度中の変動額合計	0	1,139	1,139	△1	1,137	1,137	
平成20年3月31日 残高	3,958	39	39	△29	3,969	3,969	

株式情報

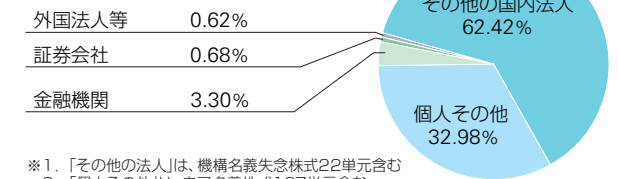
株式の状況

発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式の総数	93,481,700株
株主総数	8,391名

大株主

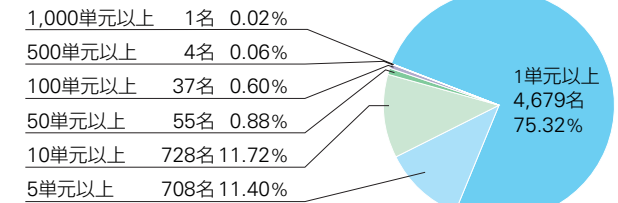
株 主 名	当社への出資状況	
	株式数(株)	出資比率(%)
株式会社データ・アート	54,545,000	58.35
みずほ信託銀行株式会社	885,000	0.95
東京海上日動火災保険株式会社	846,204	0.91
日本証券金融株式会社	798,000	0.85
エヌティーシーアカウンティングサービス株式会社	701,000	0.75
原 幸 一 郎	479,220	0.51
株式会社東京都民銀行	390,000	0.42
王 厚 龍	340,000	0.36
株式会社フルタイムシステム	277,000	0.30
シービーエヌワイティエフエイ インベストラスト カンパニージャパン スモールカンパニーシリーズ	263,338	0.28

所有者別分布状況



※1. 「その他の法人」は、機構名義失念株式22単元含む  
 ※2. 「個人その他」は、自己名義株式167単元含む

所有株式数別分布状況



※機構名義失念株式は10単元以上、自己名義株式は100単元以上(各1名扱い)

会社概要

商 号	マミヤ・オーピー株式会社
本店所在地	埼玉県さいたま市南区根岸三丁目23番10号
設 立	昭和23年2月
資 本 金	39億58百万円
従 業 員	121名
役 員	代表取締役社長 滝 沢 三 規 常務取締役 山 本 和 孝 取締役 鈴木 登 孝 取締役 菅原 正 巳 取締役 鈴木 聡 取締役 峰 島 重 雄 取締役 磯 部 圭 一 常勤監査役 志 田 太 利 夫 監査役 関 口 正 夫 監査役 足 立 正 喜

グループ会社

ユナイテッドスポーツテクノロジーズ・ホールディングスInc. (米国・デラウェア州)
ユナイテッドスポーツテクノロジーズ・LP。(米国・テキサス州)
マミヤ・オーピー(バン格拉デシュ)Ltd.(バン格拉デシュ・チッタゴン市)
マミヤ・オーピー・ネクス株式会社(埼玉県さいたま市)

事業所及び事業内容

本 社	〒336-0024埼玉県さいたま市南区根岸三丁目23番10号 Tel 048-710-4800 Fax 048-710-4831 ・本社(社長室、管理部、監査室) ・技術生産本部(開発部) パチンコ台間玉貸機、搬送システム、小型券売機などの開発
東京営業本部	〒141-0022東京都品川区東五反田一丁目9番4号 五反田宏陽ビル4階 Tel 03-3443-1310 Fax 03-3443-1311 ・営業本部(事業開発室、システム機器営業部、特機営業部、IE営業部) パチンコ台間玉貸機、搬送システム、小型券売機などの企画・販売
岩槻事業所	〒337-0004埼玉県さいたま市見沼区卸町二丁目6番21号 Tel 048-680-5201 Fax 048-680-5203 ・技術生産本部(生産部、品質保証部) パチンコ台間玉貸機、搬送システム、小型券売機などの製造及び品質保証
戸田事業所	〒335-0031埼玉県戸田市美木木三丁目5番1号 Tel 048-449-6699 Fax 048-449-6711 ・ゴルフシャフト・ゴルフ関連用品及び遮断桿の開発・販売